

## 平成21年度 特別研修 研究報告書

児童生徒の興味・関心を高め、自ら進んで課題を追究し、解決する力を育てる指導の工夫  
—ICT機器を活用した画像提示を取り入れて—

教育情報推進係

青木 崇 (小学校教諭)

松元 崇敏(小学校教諭)

阿佐見 正樹(中学校教諭)

### I テーマ設定の理由

授業におけるICT活用は、子どもの学ぶ意欲の高揚、基礎・基本の定着、学力の向上を図る上で有効であることが実証されている。授業におけるICT活用は、主体的に学ぶ意欲と学力を高め分かりやすい授業づくりの重要な手だての一つになっている。

しかし、児童生徒の中には、ICT機器が活用された授業でも、提示された資料や文章を自分から進んで読めない、読み取る力が弱い、自分の生活と結び付けて考えられないなどの様子が見られる。すなわち、ICT機器には興味・関心を示すが、提示された資料や文章には興味・関心がないので、課題を追究したり、解決したりすることができないのではないかと考える。

そこで、提示された資料や文章に興味・関心を高め、課題を追究したり、解決したりするために、「見る視点」を与えて画像を見せたり、教材文と組み合わせ提示したりする。また、話し合い活動の場面で活動の前に画像を提示する。画像の提示の仕方や場面を工夫すれば、提示された資料や文章に興味・関心を持って読み取り、自分の生活と結び付けて考えることができるのではないかと考えた。

本研究はICT機器を活用し画像の提示の仕方や場面を工夫することで、児童生徒が資料や文章に興味・関心を高め、自ら進んで課題を追究したり、解決したりする力を育てることをねらいとして設定した。

### II 研究のねらいと課題解決策

ICT機器を活用し画像の提示の仕方や場面を工夫することで、児童生徒が授業に対して興味・関心を高め資料や文章を読み取り、自ら進んで課題を追究したり、解決したりする力が育てられることを以下の手だてを用いて明らかにする。

#### 1 手だて① 「興味・関心を高める」場面で画像を使う(小学校 第5学年 社会)

画像を提示する際に、「見る視点」を与えることで、児童の興味・関心を高め、生活と情報はどのような関係があるのかについて自ら進んで学習することができたかを検証する。今回は主にテレビCMを用いるので「何のテレビCMなのか」、「テレビCMに出てくる工場はどこにあるのか」、「何が印象に残ったか」などの視点を与える。

#### 2 手だて② 「理解させる」場面でスライド機能を使う(小学校 第4学年 国語)


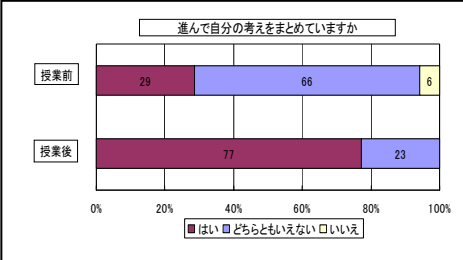
教科書の重要語句と画像を組み合わせたスライドショーを作成し、内容読解の場面でスライドショーを提示したことが、文章を正しく読み取り、筋道を立てて考えることが出来たかを検証する。

#### 3 手だて③ 「考えさせる」場面で画像を使う(中学校 第3学年 社会)

知識・理解に重点を置く学習ではなく、学んだ知識を活用して興味・関心を持って学習に取り組めるように画像を提示する。「知る」、「分かる」活動をする場面で画像を提示して、経済の仕組みや制度、特色を理解させ、社会的事象や問題の背景をとらえさせる。「考える」活動では画像で理解したことをふまえて、社会的事象の問題点や解決策を考えることができたかを検証する。

### Ⅲ 課題解決のための具体的実践

#### 1 手だて① 「興味・関心を高める」場面で画像を使う授業実践

ねらい	画像を提示する際に「見る視点」を与えることで、児童の興味・関心を高め、生活と情報はどのような関係があるのかについて自ら進んで学習させる。														
単元名	「情報と社会」(小学校 第5学年 社会)														
使用した ICT	<機器>プラズマテレビ、コンピュータ、 ----- <コンテンツ>インターネット (のり工場のCM) ◎授業で活用したWebページ <a href="http://www.shirako-nori.co.jp/jyouhou/cm/index.php">http://www.shirako-nori.co.jp/jyouhou/cm/index.php</a>														
活用内容	○ 導入場面で、進んで学習に取り組めるように、校区にあるのり工場を紹介しているインターネット上のテレビCMを視聴させた(図1)。 ○ 生活と情報にはどのような関係があるのかについて考える課題に対して、質問形式で「見る視点」(図2)を与えて、再度のり工場のテレビCMを視聴させ、ワークシートに取り組ませた。														
プラズマテレビ															
のり工場の CM															
インターネットに接続したコンピュータ															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">質 問 (視点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>何のTVコマーシャルですか。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>工場はどこにありますか。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>放映時間はどれくらいですか。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>だれが出演していますか。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>この商品を購入したこと(または食べたこと)がありますか。</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>何が印象に残りましたか。</td> </tr> </tbody> </table>	質 問 (視点)		①	何のTVコマーシャルですか。	②	工場はどこにありますか。	③	放映時間はどれくらいですか。	④	だれが出演していますか。	⑤	この商品を購入したこと(または食べたこと)がありますか。	⑥	何が印象に残りましたか。
質 問 (視点)															
①	何のTVコマーシャルですか。														
②	工場はどこにありますか。														
③	放映時間はどれくらいですか。														
④	だれが出演していますか。														
⑤	この商品を購入したこと(または食べたこと)がありますか。														
⑥	何が印象に残りましたか。														
	<p>図1 授業の様子</p> <p>図2 見る視点</p>														
成果	<p>○ 事前アンケートでは、「進んで自分の考えをまとめていますか」という問いに、29%の児童が「はい」と回答をしていたが、授業後のアンケートでは同項目が77%に増加した(図3)。</p> <p>○ 「見る視点」を与えてテレビCMを視聴させたことで、興味・関心が高まり積極的にワークシートに取り組んだ。</p>														
	 <p>図3 ワークシートへの取組</p>														
課題	○ 児童が学習に対して興味・関心を高め、進んで学習できるようにICT機器を活用した画像提示方法について、導入部だけではなく展開部やまとめの部分での活用方法を研究していきたい。														

#### 2 手だて② 「理解させる」場面でスライド機能を使う授業実践

ねらい	教科書の重要語句と画像を組み合わせたスライドショーで、文章を正しく読み取り、筋道を立てて考えさせる
単元名	「アーチ橋の仕組み」(小学校 第4学年 国語)
使用した ICT	<機器>電子黒板、プロジェクタ、コンピュータ ----- <コンテンツ>「アーチ橋の仕組み」第2場面のスライドショー(図4) (出典: JSTバーチャル科学館 石のアーチ橋はなぜ落ちない) ◎授業で活用したWebページ <a href="http://jvsc.jst.go.jp/live/arch/himitsu/index.htm">http://jvsc.jst.go.jp/live/arch/himitsu/index.htm</a>

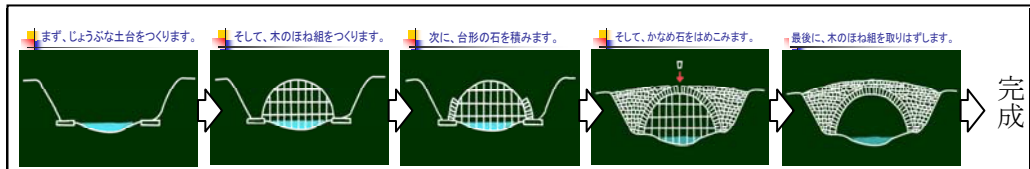


図4 スライドショー

活用内容

○ 石をアーチ形に組み合わせるにはどうしたらよいかを考える活動のまとめとして、予め教師が作成しておいたスライドショーを活用した(図5・図6)。児童にはスライドショーを見ながら自分の書いた文章と、スライドで映し出された文章との共通点・相違点を探させた(図7)。

電子黒板

コンピュータ

プロジェクタ



図5 ICT機器の設置の様子



スライドショー(図4)の提示場面

図6 スライドショーを見る場面

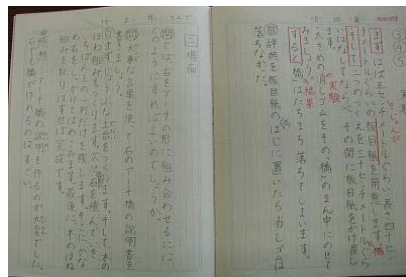


図7 児童のノート①



児童のノート②

成果

○ スライドショーの活用では教科書の重要語句と画像を組み合わせることにより、接続語を用いて重要語句を結べば、文章を短くまとめることができ、また、石造りのアーチ橋の造り方について、筋道を立てて考えさせることができた。

課題

○ 予めスライドショーを用意しておいたが、児童の多種多様な意見を取り上げられず、その場で、テキストを変更するなどの工夫が必要であると感じた。

### 3 手だて③ 「考えさせる」場面で画像を使う授業実践

ねらい	社会的事象の画像を提示して、問題点や解決策を考えさせる。
単元名	「社会保障と私たちの生活」(中学校 第3学年 社会)
使用した ICT	<p>&lt;機器&gt;プラズマテレビ(50インチ).....</p> <p>&lt;コンテンツ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市販DVD(「動く写真集 ムービー中学の公民」出版: NHK エンタープライズ)</li> <li>・インターネット上のデータを記録したDVD(日本の人口ピラミッドの推移)(実績値(1930年~2005年)は総務省統計局統計データより、推計値(2010年~2055年)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」より国立社会保障・人口問題研究所が作成  <a href="http://www.ipss.go.jp">http://www.ipss.go.jp</a>)</li> </ul>

<p>活用内容</p>	<p>○ 市販 DVD を提示して、社会保障の内容・問題点を理解させた (図 8)。</p> <p>〈DVD の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 種類の社会保障制度</li> <li>・ 社会保障の歴史</li> <li>・ 社会保障の問題点</li> </ul> <p>○ 日本の人口ピラミッドの推移のグラフ (図 9) を提示して、少子高齢化を具体的、視覚的にとらえさせた。</p> <div data-bbox="810 250 1082 443" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>社会保障って大切なものなんだなあ…。</p> </div> <div data-bbox="1011 208 1378 483" style="text-align: right;"> </div> <div data-bbox="1054 495 1289 524" style="text-align: right;"> <p>図 8 画像の視聴</p> </div> <div data-bbox="419 602 1362 781" style="text-align: center; margin: 10px auto;"> </div> <div data-bbox="448 788 912 817" style="text-align: center;"> <p>図 9 日本の人口ピラミッドの推移</p> </div> <p>○ 上記の学習活動から理解した「社会保障」「少子高齢化」の関連性、さらに生活体験から自分たちへの影響について話し合い活動を行った (図 10)。</p> <p>〈話し合いのテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化が進んだ場合の社会保障の問題点</li> <li>・ その問題点の解決策</li> </ul> <div data-bbox="810 954 1018 1099" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>少子高齢化が進むと私たちに負担がかかる…。</p> </div> <div data-bbox="767 1126 1018 1243" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>みんなで支え合うにはどうすればいいのかな…？</p> </div> <div data-bbox="1027 956 1394 1207" style="text-align: right;"> </div> <div data-bbox="1054 1214 1398 1243" style="text-align: right;"> <p>図 10 グループによる話し合い活動</p> </div>
<p>成果</p>	<p>○ 生徒の自己評価から、画像を見たことは 80%以上の生徒が「分かった」と評価しており、社会保障の内容や問題点を理解することができた。</p> <p>○ 高齢者の労働環境の整備、定年年齢の引き上げ、出産や子育てへの経済援助、独身税の導入、年金希望制などの多様な解決策を考えることができた。</p>
<p>課題</p>	<p>○ 社会保障の現状や問題点をさらに広げて考えさせるためには、画像の精選、提示の方法や場面についての工夫が必要である。</p>

#### IV 研究の成果と課題

学習活動でICT機器を活用し画像の提示の仕方や場面を工夫したことで、児童生徒の興味・関心が高まり、これまで消極的に活動をしていた児童生徒であっても、自ら進んで学習活動に取り組むことができた。

児童生徒に「見る視点」を与えて画像を視聴させたり、筋道にそった提示をしたりした結果、資料や文章を読み取る力を育成することにたいへん有効であった。

画像をもとに話し合い活動をさせた結果、児童生徒は、画像の内容を自分の生活と結びつけることができ、解決策を考えることができた。

今後は、小グループやクラス全体での話し合い活動で児童生徒の考えを深めていくことなど、学習活動を工夫することが課題である。

# 社会科学学習指導案

平成21年11月12日(木) 第3校時

指導者 青木 崇

対象学級 5年1組

場 所 5年1組教室

## 授業の視点

わたしたちは生活の中で、コマーシャルなどのたくさんの情報を受け取りそれが生活にどのような影響を与えているかということを考えさせる場面で、児童が自分の生活体験と結びつけて学習できるように地域にある白子のみ工場のTVコマーシャルを取り上げ、「見る視点」を与えたことは学習意欲を高めることに有効であったか。

### 1 単元名 「情報と社会」

### 2 考察

#### (1) 児童の実態

在籍は男子20名、女子15名 計35名である。

本学級の児童は、男子は元気が良く積極的に自分の意見を発表することができるが、落ち着きがなく授業中は最後まで集中して学習することがなかなかできない。女子は自分の考えを持つことができる児童が多いが、挙手をして発表することが苦手な児童が多い。

また、社会の学習に関するアンケート調査の結果から以下のようにとらえることができる。

- ・ほとんどの児童が社会科の授業が楽しいと思っている。
- ・約3割の児童が自分の考えを意欲的にまとめている。
- ・意見発表になると積極的に発表できると答えた児童は1割弱しかいない。
- ・友達の発表をよく聞いている。
- ・よく利用するマスメディアは圧倒的にテレビが多かった。
- ・どんな番組をよく見ているかについては、アニメ、バラエティ、ドラマの順に多く、それぞれ半分以上の児童がよく見ていると答えている。

#### ○社会科の授業について

	はい	どちらともいえない	いいえ
①学習は楽しいですか	32	3	0
②進んで自分の考えをまとめていますか	10	23	2
③進んで意見を発表していますか	4	21	10
④友達の発表をよく聞いていますか	29	6	0

#### ○マスメディアの利用について

	よく利用する	時々利用する	ほとんど利用しない
①テレビ	34	1	0
②新聞・雑誌	3	32	0
③ラジオ	1	4	30
④携帯電話	0	5	30
⑤インターネット	5	12	18

### ○よく見るテレビ番組について

①バラエティ	21	⑤天気予報	1
②ドラマ	18	⑥スポーツ	2
③アニメ	22	⑦教養	0
④ニュース	4	⑧音楽	0

#### (2) 教材観

わたしたちは、日々たくさんの情報に取り囲まれて生活している。そして、その膨大な量の情報から必要なものを取捨選択し、生活をより良くしようとしている。しかし、高度情報化社会と呼ばれる今日、情報の氾濫に伴い必要とする情報にたどり着けなかったり、有益でない情報に振り回されたりすることが大きな社会問題となっている。高度情報化社会に生きるわたしたちにとって、情報を有効に活用する能力は、まさしく生きる力であり、そのような能力を育成するための実践的・体験的な学習活動を充実させていく必要があると考える。

本単元では、「わたしたちの生活と情報」の中の「情報と社会」を扱い、情報産業から発信される情報を日常の生活や産業の中で活用していることや、それらの情報が私たちの生活に与える影響を調べる。更に児童の学習意欲を、この単元で学習したことを生かしながら実際に情報を発信しようとする意欲にまで高め、自分たちで集めた情報を本校のホームページに掲載し情報発信することでまとめとする。

#### (3) 指導の方針と支援

- ・ 集中力が持続できるように、教科書だけではなく、画像（静止画及び動画）や比較させるために使う実物の商品を用いて児童の興味・関心を高めるようにする。
- ・ アンケート結果から、児童がよく利用しているマスメディアは、圧倒的にテレビが多かったため、授業の導入部では TV コマーシャルを用いて学習意欲を高める。また、地域にある白子のり工場の CM を用いることで、TV コマーシャルと自分自身の生活体験とを結びつけて学習できるようにする。
- ・ 児童が自分から進んで学習に取り組めるように TV コマーシャルを視聴する時に「見る視点」を与える。
- ・ ワークシートに記述できない児童には、リード文を示したヒントカードを与えて記述できるように支援する。
- ・ 発表を苦手とする児童が多かったため、本単元では授業中の発言だけではなく、班毎に調べた内容をまとめてホームページを作成し発信するという形の発表も取り入れる。

### 3 本単元の目標

情報はわたしたちの生活や産業の中でどのような働きをしているかを調べ、我が国の通信などの情報産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを考える。

### 4 評価規準

#### (2) 評価規準（十分満足できる状況）

##### 関心・意欲・態度

○自分に必要な価値ある情報を見分け、活用し、発信しようとする。

ア. 身の回りの情報が自分たちの生活とどのように関係があるかについて考えたり調べたりしようとする。

イ. わたしたちの生活と情報のかかわりに関心を持ち、情報を正しく活用することの大切



さを自覚して情報を発信しようとする。

**思考・判断**

○情報はわたしたちの生活や産業の中でどのような働きをし、どのような影響を与えているかを考えることができる。

ア．情報に囲まれた自分たちの生活の良い点と問題点がわかり、情報の質を見分ける力の大切さを理解することができる。

イ．情報を効果的に活用している産業の様子がわかり、情報と産業とのかかわりについて考えることができる。

**技能・表現**

○情報に囲まれている自分たちの生活をふり返り、情報の持つ良い点、問題点を調査したり、資料などを活用したりして具体的に調べ、わかりやすくまとめることができる。

ア．くらしと情報のかかわりや情報社会での課題について、メディアを比較したり、資料を活用したりして調べることができる。

イ．調べ活動の中でわかったことや自分が考えたことをわかりやすくまとめることができる。

**知識・理解**

○わたしたちの生活や産業の中で、情報はどのような働きをし、どのような影響を与えているのかがわかる。

ア．わたしたちの生活や産業の中で情報が活用されていることを理解し、現代社会のくらしになくってはならないものであることがわかる。

イ．コンピューターと通信によって成り立っている情報社会の実情に気づき、個人の情報を大切にすることが理解できる。

5 単元の指導計画（前7時間 本時はその1時間目）

学習活動	時	指導上の留意点	評価の観点と方法
①くらしの中のコマーシャルや身の回りのテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットなどの情報が、自分たちの生活とどのような関係があるか考えたり、話し合ったりする。	1 本 時	・ 普段の生活の中で何気なく目にしてい るテレビや新聞などのコマーシャルに 着目させ、それが生活とどのような関 係があるのか考えさせる。	関・意・態-ア [発 言・ワークシー ト・発表]
②コマーシャルのひみつ TV コマーシャ ルの映像や音、全体の流れを調べて、 特色を見つけたり、メディアごとの特 色をまとめたりする。	1	・ TV コマーシャルは、数十秒で印象深 く商品を伝えるために、映像や言葉、 音楽を活用していることを具体的に捉 えさせる。	思判-イ [発言・ノート]
③テレビや新聞と情報テレビニュースの 内容や新聞記事の見出しを比較して調 べ、テレビや新聞報道の影響力の大き さを話し合う。	1	・ 同じニュースや事件でも、新聞社や放 送局によって異なった視点で取り上げ られていることに着目させる。	思判-ア [発言・ ワークシート] 知理-ア [ワークシート]
④情報を生かす情報を効果的に活用して いる産業について具体的に調べ、自分た ちの生活と情報の関わりについて話し合 う。	1	・ 身近なコンビニエンスストアを例に、 多様な情報を一つに集めて分析、判断 し、効果的に活用している産業の様子 を具体的にとらえさせる。	関態-ア [ワーク シート・発表] 思判-イ [ワーク シート・発表]

<p>⑤コンピューターと情報社会コンピューターと通信に依存している社会の様子を調べ、情報に囲まれた自分たちの生活がこれからどうなっていくのかを話し合う。</p>	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会の光の部分だけでなく、個人情報情報の漏洩などの影の部分についても考えさせる。</li> </ul>	<p>関態-イ [発言] 知理-イ [発言]</p>
<p>⑥情報を発信しよう情報を正しく、速く、わかりやすく伝えるために、どんなことに注意すれば良いか話し合い、自分たちがまとめた情報を発信する。</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何のために、誰に、どのような情報をどのような方法で伝えれば良いのか、これまでの学習内容をもとに話し合わせる。</li> <li>・ホームページに掲載する内容を作成し、発表する。</li> </ul>	<p>技表-イ [発言・作品]</p>



## 6 本時の学習

### (1) ねらい

わたしたちは生活の中で、コマーシャルなどのたくさんの情報を受け取っていることを知り、それが生活とどのような関係があるのかについて考えようとする。

### (2) 準備

教科書、プラズマテレビ、ノートコンピュータ、ワークシート、自己評価シート、TVCM、工場見学時の写真、比較する具体物等

学習活動	時間	児童への支援	評価の観点 (方法)
<p>1 本時のテーマをつかむ。</p> <p>○教科書を読む。</p> <p>○地域にある白子のり工場の TV コマーシャルを視聴し、印象に残っていることについて話し合う。</p> <p><b>予想される児童の反応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白子のり工場！！</li> <li>・学校のすぐ近く！</li> <li>・あっという間。短い！</li> <li>・3年生の時に行ったことがある。お土産をもらった！</li> </ul> <p>○白子のり工場の TV コマーシャルを再度視聴しながらワークシート1に取り組む。</p>	<p>5</p> <p>13</p>	<p>コマーシャルなどの情報は私たちの生活にどのような影響を与えているか考えてみまよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際のコマーシャルを視聴させる。</li> <li>・ どんなことが印象に残ったか発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年生の時に社会科見学で白子のり工場へ行った時の写真やワークシートなどを見せて学習した内容を振り返らせる。</li> <li>・ そのときの思い出を発表させる</li> </ul> </div> <p><b>＝見る視点を与えて再度視聴させる＝</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①何のコマーシャルですか。</li> <li>②工場はどこにあるか知っていますか。</li> <li>③放映時間はどれくらいですか。</li> <li>④誰が出演していますか。</li> <li>⑤この商品を購入したこと（または、食べたこと）がありますか。</li> <li>⑥何が印象に残りましたか。</li> </ol>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>コマーシャルなどの情報が生活にどのような影響を与えているのかについて考えようとしているか。</p> <p>[観察・ワークシート・発言]</p>
<p>2 よくコマーシャルや広告等でみかける商品とそうでない商品を比較し、どちらを購入することが多いか選び、なぜ自分はその商品を購入するのかを考える。(ワークシート2)</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コマーシャルや広告等でよく目にする商品とほとんど宣伝されていない商品の実物を提示する。</li> </ul>	
<p>3 コマーシャル等の情報は生活とどのようなつながりがあるかを自分の言葉でまとめる。(ワークシート3)</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートに記述できない児童には、リード文を示したヒントカードを与えて記述できるように支援する。</li> </ul>	
<p>4 ワークシートが早く終わった児童は自己評価シートに取り組む。</p>	5	<p>授業への取り組みについて自己評価させる。</p>	

＝ 情報と社会 「くらしの中のコマーシャル」

＝

[ 年 組 番 名 前 ]

1 テレビコマーシャルを見る時に、次のことに注意してみましょう。

質 問 (視点)	
① 何のTVコマーシャルですか。	
② 工場はどこにありますか。	
③ 放映時間はどれくらいですか。	
④ だれが出演していますか。	
⑤ この商品を購入したこと（または食べたこと）がありますか。	
⑥ 何が印象に残りましたか。	

2 あなたはどちらの商品を買いたい（食べたい）と思いますか。また、その理由も考えましょう。

(1) 買いたいと思う方に○を付けましょう。

① コマーシャルを みたことがある商品	② (あまり) コマーシャルを みたことがない商品
------------------------	------------------------------

(2) どうして( )番を選んだのですか。理由を書きましょう。

・

3 コマーシャル等の情報は、わたしたちの生活にどのような影響を与えているか考えてみましょう。

・

# 国語科学習指導案

平成21年11月2日(月)第5校時

第4学年3組 指導者 松元 崇敏

活動場所 第4学年3組教室

## 授業の視点

語や文のつながりをおさえ、段落相互の関係を考える場で、ICT機器を活用して要約文を書かせたことは、文章の叙述にそって内容をとらえることに効果的であったか。

### I 目指す言語能力

目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと (C-I)

### II 単元名 すじ道を立てて考えよう

### III 単元の目標

語や文のつながりをおさえ、段落相互の関係を考えながら、文章の叙述にそって内容をとらえたり、文章に書いたりする。

### IV 考察

#### 1 児童の実態

本学級の児童は、学校で設定されている読書の時間には大変意欲的に取り組み、学級文庫の図書や図書館の図書を積極的に活用して楽しく読書をしている児童が多い。また、学年で群読の練習をしたときには、詩の内容や言葉のリズムを楽しみながらクラス全体で協力し合う姿が見られた。

昨年度(第3学年次)の標準学力調査の結果をみると、「読むこと」は期待正答率を7.4ポイント上回り、小問別に見ても、期待正答率を大幅に下回っているものはなかった。

第1学期に「花を見つける手がかり」「とんぼの楽園づくり」の説明文教材で文章の中心をとらえて読む学習をしてきたが、単元のまとめのテストでは、「花を見つける手がかり」の学級平均点が87点、「とんぼの楽園づくり」の学級平均点が82点で全国平均をやや上回った。

このように、標準学力調査や単元別テストの結果を見ると、本学級の児童は学習した内容を十分理解し、自分から読み、考えようとする姿勢が身に付いてきていることが伺える。しかし、「花を見つける手がかり」の学習の中で、段落ごとの要点をとらえ、文章全体の文意をつかむ活動をしたところ、要点をとらえることは出来たが、文章全体の文意をとらえることのできない児童が数人いた。このことにより、段落相互の関係を読み取ることがまだ十分にできていない児童が数名いることがわかった。

#### 2 指導の内容と教材とのかかわり

① 教材名 「アーチ橋の仕組み」(教育出版 ひろがる言葉 小学国語 4年下)

#### ② 指導の内容と教材とのかかわり

説明文の学習として1学期に取り組んだ「花を見つける手がかり」では、段落の要点をとらえながら文章を読む学習を行い、児童は、段落の要点をとらえることができるようになってきた。

本単元で目指す言語能力は「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」である。また、本単元の目標は「語や文のつながりをお

さえ、段落相互の関係を考えながら、文章の叙述にそって内容をとらえたり、文章に書いたりする。」である。

本単元の教材文「アーチ橋の仕組み」は、「アーチ橋」という、見たことはあっても、今まで児童があまり意識したことがない橋の構造やその造り方・歴史について明快に論述された説明文である。

本単元の教材文は、段落ごとの要点が明確であり、段落の構成も明快で、説明文の学習のベースとして適切な教材である。さらに、典型的な接続詞などである「ところで」「まず」「次に」「このように」「では」「そして」「最後に」「こうして」などが、適切に使われている。

このように、本単元を学習することで、これまで行ってきた段落学習をもとに文章全体と段落との関係について考えさせることができる。また、接続詞や指示語の学習をすることで、語や文のつながりをおさえ、段落相互の関係を読み取る力を身につけさせることができると考える。

本単元では写真や挿絵が効果的に用いられ、児童が教材文を読む助けとなっている。本単元での学習では、写真や挿絵を ICT 機器を活用して大きく投影したり、地域のアーチ橋の画像を提示したりして、児童の興味関心を惹き、自分の経験や地域の様子と照らし合わせることで、身近なこととして考えることができるように指導していきたいと考える。

### ③ 日常の取り組み

本学級では、図書とのふれあいを深めるために、読書カードを利用して日々の読書における一言感想に取り組んだり、音読に取り組んだりしている。

読書カードでは、読んだ本の題名と一言感想を書かせることで、読んだ本について振り返らせている。また、自分が読んだ本は、帰りの会で「本紹介」を行い、クラスの友達に紹介することで、自分の感想を友達とも共有できるようにしている。これらの活動を通して、「また本が読みたい」という意欲を高めていきたいと考え、取り組んでいる。

教科書の音読では、教材の題名部分に1回ごとに○をつけ、自分が何回音読をしたのかを振り返られるようにし、音読の回数を増やしていきたいと考えている。

### ④ 校内研修とのかかわり

本校の校内研修の主題は「自分の考えを持って読みを深めることのできる児童の育成」である。また、副主題は「書く活動を取り入れた学習過程の工夫を通して」である。

本教材はアーチ橋という、見たことはあっても、今まで児童があまり意識したことがない橋の構造やその造り方・歴史について明快に論述された説明文である。

写真や挿絵、ICT 機器を活用して、段落の要点をとらえながら、段落相互の関係を明らかにし、文章全体の文意をつかませる。

文章全体の文意がつかめたところで、指示語や接続語を用いて文章全体を要約させる。自分が書いた要約をもとに、周囲の友達との意見交流をさせる。

このような活動を通すことで、児童は確かな考えを持つことができ、友達との意見交流の中で自分の考えを持って読みを深めていくことができると考える。

以上のようなことから、本教材を学習することは校内研修を進めるにあたり、大変有効であると考えられる。

## V 評価規準

### ○関心・意欲・態度

アーチ橋の仕組みに興味関心をもち、すすんで中心をおさえて読もうとしている。

### ○読むこと

段落相互の関係に注意し、書かれていることを的確におさえて読もうとしている。

### ○言語事項

辞書の活用など言葉の正確な使い方を意識している。

## VI 指導方針

- ① 音読する機会を多く設け、児童の読書量をしっかりと確保する。
- ② 学習課題を設定する場では、アーチ橋の仕組みを読んで初めて知ったことや驚いたこと、すごいと思ったことを児童に問いかけ、児童の興味関心を高められるようにしていく。
- ③ 大事な言葉は□で囲んだり、大事な文にはサイドラインを引かせたりして、要点やキーワードを正しくとらえさせる。
- ④ 挿絵や写真を利用したり、ICT 機器を活用して大きく投影したりして、アーチ橋の仕組みがしっかりと読み取れるようにする。
- ⑤ 群馬県や太田市にあるアーチ橋を ICT 機器で投影することで、身近なこととしてとらえられるようにしていく。
- ⑥ グループやクラス全体で意見交流をする場を設け、児童の考えが深められるようにする。
- ⑦ グループでの意見交流の場は司会を設け、司会を中心に話し合いができるようする。
- ⑧ 毎時間ごと感想を書かせ、その日の学習を振り返る場を設ける。
- ⑨ 新出漢字は仮名遣いに注意して正しく使えるようにさせる。
- ⑩ 全体を指示語や接続語に気をつけて読ませ、国語辞典を活用して言葉を正確に用いられるようにしていく

## VII 指導計画（全10時間）本時は10時間中の5時間目

過程	時間	評価項目 学習内容	国語への関心・意欲・態度 (方法・手段)	読む能力 (方法・手段)	言語への知識・理解・ 技能 (方法・手段)
つかむ	2	全文を通読し、初めて知ったことや、不思議に思ったことを中心に感想を話し合う。	○アーチ橋の仕組みに興味関心を持ち、すすんで中心をおさえて読もうとしている。 ◎アーチ橋の仕組みに興味関心を持ち、すすんで中心をおさえて読み、気づいたことやわかったことをノートに書いたり、発表したりしている。(観察・ノート)		
追究する	2	第(一)段落を読み、アーチの仕組みについてわかったことをノートに書く。		○アーチの仕組みについて、わかったことをノートに書いている。 ◎アーチの仕組みについて、わかったことをノートに書き、アーチ橋が橋の組み立てに使われている理由を考えている。(ノート・発表)	
	1 本時	第(二)段落を読み、石をアーチの形に組み合わせるにはどうすればよいか考える。		○石をアーチ形に組み合わせるために大切なことを考えることができる。 ◎石をアーチ形に組み合わせるために大切なことを考え、進んで発表し、友達の意見との共通点や相違点を考えることができる。 (ノート・観察) ◎石のアーチのつくり方を説明	

	1	第(三)段落を読み、アーチ橋の歴史と現代とのちがいについて考える。		○アーチ橋の歴史と現代のアーチ橋との違いや同じ点について考えている。 ◎アーチ橋の歴史と現代のアーチ橋との違いや同じ点について考え、中心をおさえて読もうとしている。(観察)	
	1	文中に出てくる接続語の働きについて考える。		○すすんで文章を読み、接続語の働きを考えている。 ◎すすんで文章を読み、接続語の働きを考え、意見を発表しようとしている。(ノート・観察)	
	1	三つの意味段落に小見出しをつけ、全体の文章構成をとらえる。		○内容を大きくまとめながら、意味段落ごとに書かれていることをまとめている。 ◎内容を大きくまとめながら、意味段落ごとに書かれていることをまとめ、自分の考えを積極的に発言している。(ノート・観察)	
まとめる	1	本文全体を要約する。		○本文全体を要約して書いている。 ◎本文全体を要約し、友達にわかりやすく説明している。 (ノート・観察・発表)	
	1	文章の内容について問題を作り、友達と出し合う。		○アーチ橋クイズを作り、友達と出し合っている。 ◎アーチ橋クイズを作り、友達と出し合い、アーチ橋の仕組みについての理解を深めている。 (観察・ノート)	○国語辞典を利用して言葉の正確な使い方を意識している。 ◎国語辞典を利用して言葉の正確な使い方を意識し、正しい使い方でクイズを出し合っている。 (観察・ノート)

## Ⅷ 本時の学習


### 1 ねらい

意味段落②を読み、石をアーチの形に組み合わせるにはどうすればよいか考えることができる。

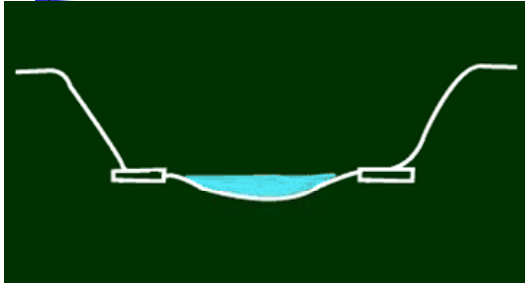


### 2 準備・資料

パーソナルコンピュータ、スマートボード、プロジェクタ、実物投影機、石のアーチの作り方の画像、熊本県霊台橋の画像 長崎県の眼鏡橋の画像 熊本県の通潤橋の画像 安中市松井田町の碓氷第三橋梁の画像 太田市の刀水橋の画像

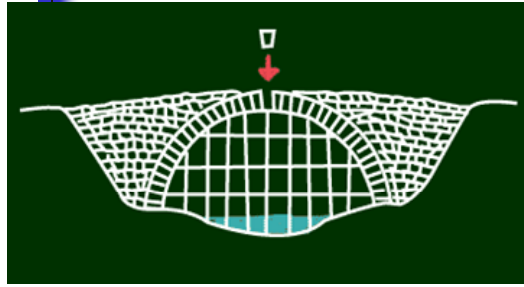
3 展開

学習過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目 (評価方法)
導入	1 石造りのアーチ  読する	2	<p>・霊台橋の画像を見せ、これからの学習への (めあて) 石をアーチの形に組み合わせるにはどうすればよいか考 えよう。</p> <p>○一人一人が正しい姿勢ではっきりとした 声で音読できるように支援する。</p>	
展開	<p>3 意味段落 2 の課 題文を見つけ、本時の めあてを確認する。</p> <p>4 意味段落 2 の重 要な語句にサイドライ ンを引く。</p> <p>5 重要語句を用い て意味段落 2 の要約</p>	<p>5</p> <p>5</p> <p>5</p>	<p>・課題文「石をアーチの形に組み合わせるに は、どのようにすればよいのでしょうか」を 文中から見つけさせる。</p>  <p>問題文 では、石をアーチの形に組み合わせるには、 どのようにすればよいのでしょうか。</p> <p>めあて 石をアーチの形に組み合わせるに はどうすればよいか考えよう。</p> <p>・課題文を解決するために文中の重要な語句 を探させ、教科書にサイドラインを引かせ る。 ○段落ごとの要点をとらえさせ、要点にサイ ドラインを引かせる。 ○サイドラインを引けない児童には机間指 導をしながら文中のキーワードに着目させ る言葉をかける。</p> <p>・サイドラインを引いたところをもとに、意 味段落 2 の要約文をノートに書かせる。</p>	<p>○石をアーチ形 に組み合わせる にはどうすれば いいか考えるこ とができる。 ◎石をアーチ形 に組み合わせる にはどうすれば いいか考え、進 んで発表し、友 達の意見との共 通点や相違点を 考えることがで きる。 (ノート・観察)</p>

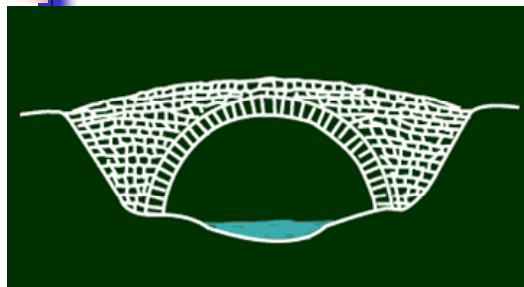


	<p>文を書く。</p> <p>6 要約文をグループごとに実物投影機で発表し、それぞれのグループの意見について話し合う。</p> <p>7 グループで話し合ったことを発表する。</p>	<p>10</p> <p>10</p>	<p>○前時に学習した接続語を用いて意味段落②を短くまとめることを伝える。</p> <p>・要約文をグループごとに実物投影機を用いて発表させる。</p> <p>○発表では、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を考え、朱書きでメモを取るように言葉がけを行う。</p> <p>○メモを取ったことをもとにグループで要約文をつくる。</p> <p>・グループで話し合ったことを代表の児童に発表させる。</p>	
<p>ま と め る</p>	<p>8 石のアーチの作り方を書き、群馬県にある石のアーチ橋の画像を見て本時のまとめをする。</p>	<p>5</p>	<p>・スライドショーを用いて石のアーチをつくるために大切なことを確認させる。</p> <p><b>まず、じょうぶな土台をつくります。</b></p>  <p><b>そして、木のほね組をつくります。</b></p>  <p><b>次に、台形の石を積みます。</b></p> 	

そして、かなめ石をはめこみます。



最後に、木のほね組を取りはずします。



石づくりのアーチ橋の完成



(出典：JSTバーチャル科学館  
石のアーチ橋はなぜ落ちない

<http://jvsc.go.jp/live/arch/himitsu/index.htm>)

○群馬県安中市松井田町にある碓氷第三橋梁の画像を見せ群馬県にも石のアーチ橋があることを見せ、石のアーチ橋が私達の生活に関わっていたことを考えさせる。

			<p>群馬県の石造りのアーチ橋</p>  <p>(出展：G-TaK)</p>	
--	--	--	--	--

(要約文：例) まず、じょうぶな土台をつくります。そして、木のほね組みをつくります。次に台形の石を積みます。そして、かなめ石をはめこみます。最後に、木のほね組みを取りはずします。

# 社会科学習指導案

平成21年11月 2日(月) 4校時  
第3学年1組 男子23名 女子16名  
指導者 阿佐見正樹(場所3年1組)

## 授業の視点

社会的事象を正しく理解するために画像を活用することは、社会的事象の問題点や関連性を見つけたり、問題の解決を考えたりする話し合い活動には有効であったか。

1 単元名 第4章 納税者として国の経済を考えよう

2 単元の考察

(1) 生徒の実態

社会科に対する興味・関心は決して低くはないと思われるが、授業中の発言や発表はあまり多くは見られない。おそらく、3年生で学習する公民分野は政治や経済といった直接国民の生活に結びついているものを扱うが、中学生の生活とは実際には距離があること、新聞やニュースで政治や経済に関連することを聞いたり、見たりはしているがよくわからない、十分な理解ができていないのが原因であると思われる。

また、社会科という教科の特性や生徒たちの意識から、知識・理解に重点が置かれ、思考・判断力や資料活用能力がなかなか育っていないのが現状である。そこで、画像を使って正しく理解させたり、考えさせたり、グループによる話し合い活動を取り入れて他の意見や考えを聞くことで自分の考えをまとめていくことは一人一人にとって有効な学習方法であると考えられる。

(2) 教材観

私たち国民は、三大義務の一つとして納税の義務が課せられている。しかし、実際に税金がどのように使われているのか、正しく使われているのか、をほとんど知らないでいる。それは、国民として、納税者としての責任の無さや関心の低さかもしれないが、国や地方公共団体を信用し過ぎていたのかもしれない。しかし、今回の総選挙での結果や現在各省庁で見直しをしている概算要求を考えると、国民は税金の使われ方について比較的高い関心を持っていることがうかがえる。

また、社会保障についても年金、医療、介護等、直接国民に関わることであり、現在でも国民の関心は非常に高いものがある。しかし、国民年金における未納・未加入者の問題や、医療における医師や診療科の偏在、生活に困窮しながらも就労支援や生活保護を受けられない人々の存在など、国民の信頼を損ない、不安を高めるような事象が発生している。

そこで、これからの日本を担っていく中学生にとって、本単元「第4章 納税者として国の経済を考えよう」は、政権交代によって日本の政治制度や経済のしくみが大きく変わろうとしている今、国民の一人としての自覚を持ち、責任を持って学習していかなければならない内容である。しかし、中学生にとっては身近で直接生活に結びついているものばかりではなく、考えにくい、理解しにくい場合もあると思われる。そこで、自分の今現在の生活だけではなく、5年後、10年後、さらには遠い将来に向けた視点を持たせながら、

財政や社会保障のしくみだけではなく、確実に進んでいる少子高齢化、財政赤字の問題などの社会の変化に向けた納税者としての責任と役割を自分たちの立場で考える良い機会としたいと考えている。

### (3) 指導方針

- ・ 学校や公共物などの身近で具体的なものを取り上げ、その費用や必要性について興味を持たせ、国の経済活動や政策に対してその意義や役割について、意欲的に追究させる。
- ・ 社会保障や社会資本など自分の身の周りには国や地方公共団体からの支援や制度で成り立っているものがあること、そのために社会全体で共同負担していることに気づき、財政の役割や経済的な問題点について考えさせる。
- ・ 国の経済活動について教科書や資料集のグラフや表などからその特色や問題点を読み取らせ、その結果をまとめたり、表現させる。
- ・ 政府・家計・企業の経済の循環を基本にして、租税の意義と役割、社会保障制度の内容、社会資本の役割など国の経済活動の意義についての知識を理解させる。

## 3 指導目標及び評価規準

### (1) 目標

- ・ 国の経済活動や政策に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。
- ・ 身の周りの生活から、国などの財政の役割について考え、国の果たす経済的な役割や問題点について考察することができる。
- ・ 国の経済活動について、資料を適切に活用、考察し、その結果をまとめたり、表現することができる。
- ・ 経済の循環を理解し、租税や社会資本の役割、社会保障制度の内容など国の経済活動の意義について理解する。

### (2) 評価規準

- ・ 身近な財政に関する問題に興味を示し、国の経済活動や政策に対する関心を高め、意欲的に追究している。
- ・ 身近な学校生活、身の回りの社会保障や社会資本から、国などの財政の役割について考え、国の果たす経済的な役割や問題点について、他者の意見や考えを参考にしながら考察することができる。
- ・ 国の経済活動のあり方について追究し、資料を適切に活用し、その結果をまとめたり、わかりやすく表現することができる。
- ・ 経済の循環、経済主体を理解し、租税の意義と役割、社会保障制度の内容、社会資本の役割など国の経済活動の意義についての知識を身に付けることができる。

4 指導計画（5時間計画）

単元名	学習活動	指導上の留意点	評価項目
①私たちの生活と財政 ●私たちの生活と財政 ●経済の循環	●学校にかかる費用という身近な問題から財政の果たす役割について考える。 ●経済の循環と経済主体について「経済の循環」の表を参考に理解する。	●学校という身近な費用負担について示すことで財政に対する興味・関心を高め、その他にも公共施設やサービスの提供があることに結びつけさせ、その役割を考えさせる。	・身近な学校生活にかかる費用負担から、国などの財政の役割について考えることができる。（思考）
②国の支出と収入 ●日本の歳出と特色 ●日本の歳入と税金	●「政府への国民の要望」のデータを用いて国民の要望は実現されているのかどうかを「国の歳出と歳入」の数値を参考にして考える。 ●歳入の税金のしくみを理解する。	●「政府への国民の要望」のデータ項目と「国の歳出と歳入」の数値との比較表を作成し、生徒の理解を助ける。	・二つのグラフを比較し、検討することができる。（技能） ・租税の意義を理解し、その知識を身につけている。（知識）
③社会保障と私たちの生活（本時） ●社会保障の考え方 ●社会保障にかかる費用と課題	●社会権に基づく社会保障制度を理解する。 ●少子高齢社会への対応の方法や社会保障の考え方と問題点などを考える。	●「社会保障制度」に関する映像（DVD）を見せて、正しく社会保障について理解させるとともに、少子高齢化への対応や問題点、解決策をグループで話し合わせる。	・社会保障制度の内容をとらえている。（知識） ・少子高齢社会問題に関心をもち、望ましい社会保障制度を考えている。（思考）
④社会資本の役割 ●社会資本の整備 ●これからの社会資本のあり方	●公共事業による社会資本の整備の現状をとらえる。 ●これからの社会資本のあり方を考える。	●身の回りにあるものの中から社会資本で整備されたものを見つけさせる。 ●「社会資本整備の割合」のデータを提示し、それを読みとらせ、今後の整備のあり方を考えさせる。	・社会資本の役割に気づき、その整備やこれからのあり方について自分の考えをもっている。（思考）
⑤納税者として国の財政を考えよう ●増えている国債費 ●日本の将来と税制 ●税をおさめるにあたって	●「直接税・間接税の割合」のグラフを読みとる。 ●スウェーデンとアメリカの社会保障制度の違いを調べどちらがよいか話し合う。	●「直接税・間接税の割合」のデータを提示し、それを読みとり、日本の財政の特色を理解させる。 ●スウェーデンとアメリカの社会保障制度の違いを調べさせ、どちらがよいと考えるのかについて話し合わせる。	・グラフなどの資料から適切な情報を読みとることができる。（技能） ・納税の義務、租税の意義に関する知識を身につけている。（知識）

## 5 本時の学習（3／5時）

### （1）ねらい

社会保障制度の内容や現状を正しく理解するために画像を活用し、現在、そして将来における社会保障の問題点を見つけたり、問題の解決を考えたりする話し合い活動を行うことができる。

### （2）準備・資料

教科書「中学生の公民」（帝国書院）、資料集「公民の資料」（正進社）、学習プリント

DVD ①「動く写真集 ムービー中学の公民」

（発行：NHKエンタープライズ 企画・販売：山川出版社）

DVD ②「日本の人口ピラミッドの推移」（1930年～2055年）

（実績値（1930年～2005年）は総務省統計局統計データより、推計値（2010年～2055年）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」より国立社会保障・人口問題研究所が作成）

### （3）展開

学習活動	時間	支援・指導上の留意点	評価項目・方法
1. 本時のテーマをつかむ。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会保障の中の「年金保険」「医療（健康）保険」について、実際の年金納付額・給付額、医療費について話をし、本時のテーマを理解するとともに興味・関心を持って学習に取り組ませるようにする。</li> <li>○ 「年金保険」「医療（健康）保険」については、国民全体で負担をし合う、助け合うことでその制度が成り立っていることを理解させる。</li> </ul>	
2. DVD ①を2回見て社会保障制度についてまとめる。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「社会保障制度」のDVDを視聴させる。（約3分07秒）</li> <li>○ 「社会保障制度」の4種類について確認させながら学習プリントにまとめさせる。</li> <li>○ 2回見せることによって、社会保障制度について正しく理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会保障制度の内容を理解している。</li> </ul> <p>【知識・理解】 (学習プリント)</p>
3. DVD②「日本の人口ピラミッドの推移」を見る。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「日本の人口ピラミッドの推移（1930年～2055年）」（約1分）を見ることで、少子高齢化がさらに進むことを理解させる。</li> </ul>	



<p>【グループ活動①】 「少子高齢化が進んだ場合の問題点は何ですか？」について話し合う。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確実に進んでいる「少子高齢化」という問題点に絞り、グループで話し合わせる。</li> <li>○ 自分の意見はもちろん、他者の意見を尊重しながら、グループの意見としてまとめさせる。</li> <li>○ 社会保障についての問題点は他にもあるので、「少子高齢化」以外の問題点については教師側から導くように進めていく。</li> </ul> <p>〈その他の問題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年金の未納者(資料集P91)</li> <li>・ 低所得者の負担増(月額保険料増加)</li> <li>・ 医療費の増大(資料集P91)</li> <li>・ 年金一元化の問題(資料集P91)</li> </ul>	
<p>【グループ活動②】 「問題点を解決するためにはどうするか？」について話し合う。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ活動①で話し合われた問題点を解決するための方法について話し合わせる。</li> <li>○ 少子高齢社会への解決方法が中心となるが、その他の問題点についての話し合いもグループの進度によっては考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少子高齢問題に関心をもち、望ましい社会保障制度を考えている。</li> </ul> <p>【思考・判断】 (学習プリント)</p>
<p>4. グループで話し合ったことを発表しながら本時のまとめとする。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合われた解決方法が同じであっても、ポイントがずれていても、その考え方を認めることで、生徒たちに成就感を味わわせる。</li> <li>○ 最終的には、社会保障問題については、まだまだ議論をされている段階で確実な解決方法や制度は確定しておらず、国の大きな課題であることを伝えるとともに、国民が負担をしながらもその意義や必要性が大きいことを十分に理解させる。</li> </ul>	
<p>5. 自己評価をする。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習プリントの「今日の授業を振り返ってみよう」に自己評価をさせる。</li> </ul>	

### ③ 社会保障と私たちの生活

3年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

#### 1. 社会保障制度について、まとめてみましょう。

① ( )	② ( )	③ ( )	④ ( )
生活保護 (生活・教育・住宅 医療・介護・出産 生業・葬祭)	⑤ ( ) 保険 ⑥ ( ) 保険 雇用保険 労働者災害保険 介護保険	児童福祉 母子福祉 身体障害者福祉 ⑦ ( ) 福祉	感染症予防 予防接種 廃棄物処理 下水道 公害対策
収入が少なく、最低限度の生活を営めない人に、生活費などを給付する。	加入者や国・事業主が社会保険料を積み立てておき、必要とき給付を受ける。	働くことが困難な人々に対して、生活の保障や施設・リハビリ・在宅ケアなどのサービスをする。	国民の健康増進 生活環境の整備 感染症などの予防

#### 2. 「少子高齢化」が進んだ場合の社会保障の問題点は何ですか？

(DVD「社会保障制度」・グラフ「日本の人口ピラミッドの推移」を見て…)

- 
- 
- 
- 
- 

#### 3. 2の問題点を解決するためにはどうしたらよいと思いますか？

- 
- 
- 
- 
-

**4. 今日の授業を振り返ってみよう。**

1. DVD「社会保障制度」を見て、社会保障制度がよくわかりましたか？	5	4	3	2	1
2. DVD「日本の人口ピラミッドの推移」を見て、少子高齢化が進むのがよくわかりましたか？	5	4	3	2	1
3. 社会保障について、しっかりと考えることができましたか？	5	4	3	2	1
4. グループの話し合い活動には積極的に参加できましたか？	5	4	3	2	1
5. グループの話し合いで、友達の意見や考えは参考になりましたか？	5	4	3	2	1

5 : よくできた・わかった      4 : まあまあできた・わかった      3 : 今まで通り普通  
 2 : あまりできなかった・わからなかった      1 : 全然できなかった・わからなかった

**5. 社会保障について学習した感想や気づきなどを書いてください。**

○